

島原市防災訓練への参加と故高田知事お別れの会参列

1 島原市防災訓練への参加

平成30年11月18日（日）島原市の防災訓練が実施され、第16普通科連隊と第4飛行隊が参加しました。

島原市の防災訓練に参加して感じたことは、実効性のある防災訓練だったということです。殆どの防災訓練は展示型で啓発目的の訓練が多い中、非常に有意義な訓練でした。

訓練は、雲仙・普賢岳の噴火活動により形成された溶岩ドームが地震の発生で崩落の恐れがあることを想定して、大規模な防災避難訓練を行うものでした。訓練には、計26機関の関係者と地元住民あわせて約2,100人が参加しました。

自衛隊は、県防災ヘリに代え市長等を乗せて溶岩ドームの偵察飛行を行い、地上では避難住民の輸送と炊き出しを行いました。

雲仙・普賢岳の活動が続き、定期的に調査登山をしていることから意識が高いのだろうと感じさせられました。

2 故高田知事お別れと感謝の会参列

平成30年11月24日（土）島原市のふかえ桜パークにある故高田氏の胸像の前で「お別れと感謝の会」が行われ、参列してきました。

発起人代表として古川島原市長がご挨拶され、27年前の雲仙・普賢岳噴火災害当時、知事として常に先頭に立ち、復旧から復興まで「山よ鎮まれ、街よにぎわえ」を信条として東奔西走されてきたこととあわせ、大火砕流に危険を顧みず突入していく自衛官に対して「人の命は地球より重たい、そしてさらに重たい自衛官の使命感を初めて知った」との言葉を残されたことを紹介されました。

当時の災害派遣は、延べ日数1,658日、人員207,225人にのぼり、他に類を見ない長期にわたる災害派遣となりました。

長崎県を災害隊区として担任する第16普通科連隊は、今後も地域の為に活動できる強い部隊であり続けなければならないと、あらためて自覚することとなりました。

第16普通科連隊長兼大村駐屯地司令

1等陸佐 南野 延寿



故高田知事の胸像と雲仙・普賢岳／島原市ふかえ桜パークにて